

消防訓練やってみよう！



高松市北消防署

消防訓練はなぜ必要なの？

「火事はひとつと、私のところには関係ない」と思っている方が多いと思います。しかし、火災はいつどこで発生するかわかりません。いざという時のため、パニックを起こさず、『安全』で『確実』に行動できるよう、日頃から訓練をしましょう。



消防訓練は3種類あります

消火訓練

火災を最小限に抑えるために、消火器や屋内消火栓の使い方を覚えたり、実際に使ったりします。

通報訓練

消防隊がより早く到着し、確実に活動するために119番通報の仕方を覚えます。

避難訓練

安全に避難するために、避難経路の確認や避難誘導を行います。

消防訓練はどのくらい時間すればいいの？

もちろん消火訓練・通報訓練・避難訓練を全部行う総合訓練ができれば1番です。

しかし、事業所に勤務体制等の事情により時間が取れなかったり、人数が揃わないという場合には、**できる時に・できる人で・できる訓練**をしてもらってかまいません。例えば朝礼のときに消火器の取扱いを試みる、退社時に避難訓練を行う、など、やり方を工夫すれば短時間でも大丈夫です。

消防訓練は誰がリーダーになるものなの？

消防訓練は消防機関が行うものではありません。事業所の中で**防火管理者**が作成した**消防計画**に基づき行うものです。防火管理者が中心となり、**防火管理者の指導のもと**、その事業所に適した訓練を行いましょう。



実際にやってみよう！！

消火訓練

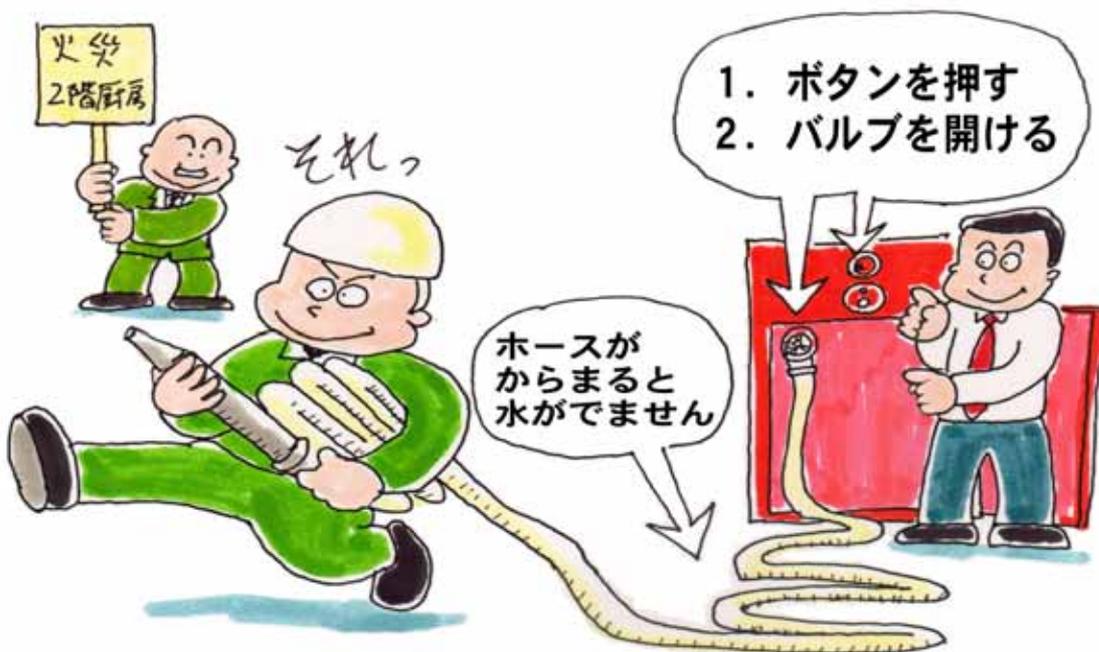
消火器取扱い訓練

- 1 安全ピンを抜く
- 2 ホースを火元に向ける
- 3 レバーをにぎる



消防署にある訓練用の水消火器を貸出しています。予約が必要ですので最寄りの消防署に相談してください。

屋内消火栓取扱い訓練



通報訓練

- 1 火災を発見したらまず周囲に知らせましょう



- 2 次に消防機関『119』に連絡しましょう

119番通報すると

- ・ 火災発生場所（近くの目標物も含めて）
- ・ 何が燃えているか
- ・ 逃げ遅れや怪我人がいないか
- ・ お名前と電話番号



など聞かれます。パニックになると普段は言える住所や名前ですら言えなくなることがあります。通報に必要な事項を紙に書いて電話機の前に貼っておくと、いざという時の手助けになります。



避難訓練

いざという時に建物の外に避難するための設備を探してみましょう。
避難用設備には『避難器具』や非常口まで誘導する『誘導灯』等があります。

誘導灯



避難口誘導灯

ここから避難すると非常口、又は階段室に出られます。



通路誘導灯

矢印の方向に非常口、又は階段があります。

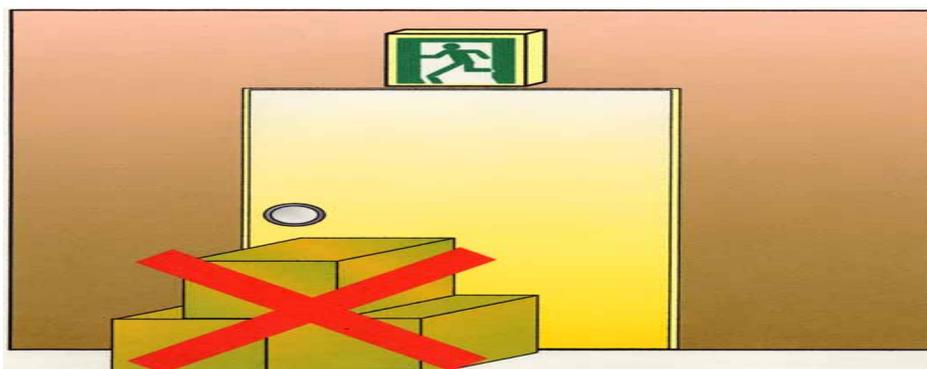
チェック！

・階段や通路に物を置いていませんか？

非常時には多くの方がパニック状態でいっせいに避難します。また停電等により足元が見えなくなることもあるため、安全に避難できるよう、日頃から階段や通路に物は置かないようにしましょう。

・出入口の防火扉の前に物を置いたり、扉が閉鎖しないように詰物等をしていませんか？

防火扉は炎や煙から、みなさんを守ってくれるために設置されています。防火扉を完全に閉めることによって、安全に避難できる避難経路を確保できるようになっています。ですから、物を置いていたり、詰物をして閉まらないようにしていると、いざ火災になった時に避難経路が確保されず、炎や煙にまかれて命を落としてしまうこともあるのです。



1.

避難器具

みなさんが使用している対象物にはどのような避難器具が設置されているかご存知ですか？ 避難器具は種類やメーカーによって使い方は様々です。必ず設置されている避難器具に明記されてある取扱い説明書を読み、使い方を知っておきましょう。

避難器具は少なからず危険を伴います。避難する際には**階段を優先**し、最終的な避難方法』で避難器具を使用するつもりでいてください。



避難誘導

避難誘導はなぜ必要だと思いますか？

もし火災が発生した時、何の情報もなく炎や煙を見たら、ほとんどの人はパニックに陥り、「早く逃げたい！」と大勢の人が一斉に出口に殺到するパニック状態が起こります。従業員・お客さん・患者さん等、その施設を利用している人を落ち着かせ、安全に出口に避難しましょう。

誘導方法

- ・ 備え付けの放送設備を用いた非常放送
- ・ 誘導員の配置
- ・ 拡声器などを用いた避難の指示 など



避難後は何を行えばいいの？

到着した消防隊が迅速に活動するために、重要な情報を集め、より詳しい情報の提供をすることが大切です。

消防隊が欲しい情報は

- 逃げ遅れた人がいるか
- 怪我をした人がいるか
- 消防隊の活動上、障害になる物がないか(ガソリン等の危険物、高圧ガス、高圧電気設備など)



様々な訓練を想定して、実践的な訓練をしてください。失敗を恐れず、逆に教訓にするのも1つの手段です。

